

7. 近畿（地域別調査機関：（株）大和銀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	スーパー（企画 担当）	販売量の動き	・地場産業である梅関連商品の値上がりにより、地元の人々の購買単価が上昇している。
		スーパー（経理 担当）	販売量の動き	・今月は全般的に堅調であるが、その要因として、梅雨時の割に営業時間中の雨が少なかったこと、サッカーワールドカップ開催による内食傾向、の2つが考えられる。
		衣料品専門店 （営業・販売）	単価の動き	・安いスーツが売れず、比較的高額なスーツが多く売れるようになってきている。
		家電量販店（店 長）	販売量の動き	・6月初旬の気温の上昇によるエアコンや、サッカーワールドカップによる大型テレビのように、何かきっかけがあれば良い物が売れる傾向にある。
		乗用車販売店 （営業担当）	単価の動き	・これまで平均単価は200万円を切っていたが、最近では1台当たり250万円となっており、400万円を超える新型車も非常に良く売れている。
		観光型旅館（経 営者）	単価の動き	・3か月前と比較し、来客数は増加し、客層も幅広くなっている。 ・客はみやげ等の買物を控える様子もなく、客単価も上向きである。
		都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・宿泊客数が3か月前より増加しているが、その要因としてはサッカーワールドカップの影響が考えられる。
	その他住宅〔情 報誌〕（編集 者）	お客様の様子	・新築マンションの供給予定数が、時を経るにつれ上昇傾向にあり、2002年内の関西圏新築マンションは前年並に近づきつつある。	
変わらない		商店街（代表 者）	販売量の動き	・サッカーワールドカップの影響により、客が家に閉じこもって出てこず、期待した数字は上がっていない。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・人通り自体が減少気味である。
		一般小売店〔衣 服〕（経営者）	単価の動き	・3か月前と同様、手の出しやすい値ごろな商品が売れる傾向にある。
		一般小売店〔野 菜〕（店長）	販売量の動き	・相変わらず安い品物だけが少し売れる状況で、全体的な購買力が上がっているとは感じられない。
		百貨店（売場主 任）	販売量の動き	・婦人服関連では、前半は天候不順、後半はバーゲン前の買い控えがあり、消費者ニーズをあおった商品の提案ができなかったことや、売れ筋ヒット商品が現れていないことが、不調の原因として考えられる。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・バーゲン待ちの客が多い。 ・特選商品の売上の落込みが顕著に出てきている。
		百貨店（経理担 当）	お客様の様子	・外商の客に関して、宝石、絵画等は売れているが、客は買物に慎重で、趣味に合わないものは買わない。
		百貨店（営業担 当）	それ以外	・中元ギフトは早期割引で30%上昇している。 ・買上げ比率は0.5%上昇しており、中元等の目的買いの客が増加している。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・依然として、高額品については購入が少なく、慎重な購買姿勢である。
		スーパー（経 営者）	販売量の動き	・水産、農産物の相場上昇により一品単価の下落は下げ止まる傾向にあるが、買上げ点数は減少気味であり、買上げ単価は横ばいかむしろ下落傾向にあり、生活防衛の様子がうかがえる。
		スーパー（経理 担当）	単価の動き	・来客数は若干減少しているが、青果物の相場の上昇があり、客単価は若干上昇している。
		スーパー（経理 担当）	お客様の様子	・依然、客の購買動向からみて大きな変動はなく、安い商品を買ひ、不必要な商品は買わないという傾向が顕著である。
		コンビニ（経 営者）	来客数の動き	・公共工事関係の減少に伴い、工事従事者の来客が極端に減少している。 ・サッカーワールドカップの影響で来客が極端に減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・普及型の商品に関しては、故障でもしない限り購入しない。また、購入しても単価が下がっているため売上は上がらない。一方で、プラズマテレビ、液晶テレビなどが売れており、普及型商品の低迷を補っている。
		家電量販店（経理担当）	販売量の動き	・パソコンは相変わらず低迷しているが、テレビはサッカーワールドカップの影響で好調である。エアコンは6月初旬は好調であったが、天候の影響で勢いが落ちてきている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・今年は新車のモデルチェンジの年であり、新車効果でなんとか来客数、販売量を維持している。
		自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・引続き客の購買意欲は低調で、目的買いの域を脱し得ない。バーゲン期間中のみ来客数が増加する傾向で顧客の懐具合も相変わらず厳しい。
		その他飲食 [コーヒーショップ]（店長）	来客数の動き	・来客数と客単価の数字は、3か月前と変わっていない。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・海外を中心とした高単価商品が動かず、単価下落が目立っている。
		タクシー会社（経営者）	来客数の動き	・駅で客を待たせても客は並ばず、タクシーの利用回数は回復していない。
		通信会社（経営者）	競争相手の様子	・ネット広告の単価が同業と比べても厳しい状態であり、なかなか受注までつながっていない。また、東京と大阪の業者を比べた場合、大阪の業者よりも東京の業者の方がまだましだということに地域差がかなり出始めている。
		通信会社（社員）	単価の動き	・新機種が登場し、動きがあるようにも感じるが、商品単価が下がっただけの効果だと思われる。
		通信会社（社員）	単価の動き	・ブロードバンドサービスの浸透に伴い、次から次へと新規のサービス方式が生まれてきている。同業他社の対応速度が遅いため、1社の規模での展開では、限界が見え始めている。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・若年層の遊園地離れが激しい。
		観光名所（経理担当）	来客数の動き	・サッカーワールドカップの影響かどうか判別できないが、来客数は前年を少し下回っている。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・単価を下げなければ来客数を確保できない状況である。
		その他レジャー施設（企画担当）	来客数の動き	・サッカーワールドカップは、レジャー業界にとってはマイナスである。ただし、試合のない日などは特に影響なく、後を引くことはなさそうである。
		その他レジャー施設 [イベントホール]（職員）	販売量の動き	・ホール使用者について、リピーターの使用はあるものの、新規の使用者はあまりない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・自分でカラーをする客が増加し、複合メニューも減少している。 ・来店サイクルが開き、平均1.5か月伸びている。
		美容室（店員）	お客様の様子	・来客数がサッカーワールドカップの影響で若干減少している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・建築費用総額が減少し、設備機器も必要最低限度のものを希望する客が増えてきている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・分譲マンション販売につき、販売センターへの顧客来場状況が3か月前と比べて改善されていない。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・サッカーワールドカップ開催中は通行客が極端に少なくなる。今年は例年に比べて雨が多く、人の引きも早い。
		一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・得意先は押しなべてサッカーワールドカップの影響を受け、夜間の売上が非常に落ち込んでいる。
		一般小売店 [家具]（経営者）	お客様の様子	・サッカーワールドカップの影響が悪く出ている。
		一般小売店 [時計]（経営者）	単価の動き	・来客数は横ばいで変わらないが、売上は減少している。生活に最低限必要な物で、より安い物を求めている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・サッカーワールドカップの影響が裏目に出て、来客数が減少している。午前中の出足が遅く、夕方の引きが早い。滞留時間が短いため、客単価を上げることが難しい。また購買意欲も勢いに欠けている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・サッカーワールドカップの影響が大きく、来客数は前年を下回り、これまでますます推移していた婦人服の売上も大変厳しい状況である。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・宝飾、時計などの高額品には動きがみられるが、それ以外は買い控えが強く、購買に至らない。 ・来客数も減少しており、中心アイテムである婦人服の数量が減少し、単価も下落している。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・天候の悪さ、サッカーワールドカップによる影響で、来客数がかかり減少している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・サッカーワールドカップの影響は消費には結びつかず、街は浮き足立っているが、高額品、ブランド品は反比例して動いていない。 ・7月のバーゲンを待つ客が例年以上に多く、消費は下向いている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・家族向けの優待販売会等を継続してやっているが、必需品しか売れない状況にある。 ・天候不順により、夏商材の売上が低迷している。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・客の買物の様子からみて、ぜいたく品、嗜好品などのものが全く売れず、安くて、ボリュームがあって、美味しい、という3点揃った物でないと買ってもらえないという厳しい状況が続いている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・サッカーワールドカップの影響かどうか定かではないが、最近安定していた来客数が今月は減少している。
		その他専門店 【医薬品】（店員）	お客様の様子	・来客数が減少し、当日買いの客が多いなか、購入の品目数が減少し、客単価が低下している。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・サッカーワールドカップの影響が来客数は少なかったが、日本が負けてからは以前の状態に戻っている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・サッカーワールドカップの影響で外に出る客や観光客が減少している。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・本来6月は客の動く月であるが、今年はサッカーワールドカップに集中したためか、来客数が極端に少なくなっている。
		都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・個人部門の動きには大差ないが、法人部門が低調である。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・6月は特殊要因としてサッカーワールドカップがあり、観光客、ビジネス客ともにほとんど動いていないという過去にない状況が起こっている。単価を下げて来客がない状態が、宿泊、レストランともにみられる。
		旅行代理店（店長）	販売量の動き	・6月に入り、国内旅行はサッカーワールドカップの影響を受け、受注が伸びていない。来客数もファミリー、OLを中心に減少している。 ・海外旅行は本来ならば夏の受注シーズンのピークであるが、週末以外は客も少なく、特にOL層の海外旅行需要が低迷している。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・国内旅行は前年実績を超えたが、海外旅行は前年比60%まで落ち込んでいる。全ての客層にわたってみられた傾向であり、サッカーワールドカップの影響ではないと考えている。
		旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・サッカーワールドカップの影響もあるのか、夏休みの旅行の申込等の動きが全くない。店頭へも来客がなく、電話での申込もない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ホテル等の来客数が減少しており、サッカーワールドカップの影響も特でない。
		タクシー運転手	単価の動き	・今年2月に料金等の規制緩和が実施され、業界各社それぞれが個別に料金等の申請をし、自動認可と個別審査認可が先月末ごろより下りている。遠距離割引料金設定など価格破壊的な料金設定をすところも現れて、その影響はすぐに遠距離客の高割引料金設定会社選びという形で表面化してきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		競輪場（職員）	来客数の動き	・競輪の開催日が平日であったため、天候不良で、レートの低い普通開催であったため、売上はやや悪くなっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店頻度が目に見えて減ってきている。
		その他サービス [クリーニング]（経営者）	販売量の動き	・前半は良いペースで推移していたが、天候不順の影響もあってか、中旬頃より頭打ちとなっている。日によっては朝夕の肌寒ささえ覚える不安定な気温変化により、夏物、合物の品受けが一緒になるというイレギュラーな状態となっている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・平日の客は皆無で、土、日など週末の来客数が10件を超えていない。
	悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・依然、来客数が減少しており、今まで多少売っていた高額商品の売行きもびたりと止まって、今まで以上に客の買物は慎重になっている。
		一般小売店[文具]（経営者）	来客数の動き	・客は若い層が多いが、そのなかで低年齢の客が減少している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月後半は温度が低く、温度差が激しいため、季節的な種類の動きが悪い。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・巷ではサッカーワールドカップで盛り上がっているが、一般人の日常生活はますます厳しくなっており、今月は中旬以降特価品が1日に1、2点しか売れないようなどん底の状態である。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・販売量が極端に落ち込んできている。流動的な客がほとんどで、一定の基準で購買行動をとる客が、全く物を購入していない。
		その他専門店[宝石]（経営者）	お客様の様子	・従来の販売促進の方法を変えて、買取り、下取りを中心に広告を打っているため、買取は好調であるが、販売の方は振るわない。
		観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・3月頃から4か月連続で対前年比を割っている。特に今月はサッカーワールドカップの影響で団体客の動きが悪い。
		都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・サッカーワールドカップの宿泊客の伸びは思ったより少ない。レストランもテレビ観戦により来客数が少なく、売上は大幅に減少している。
		都市型ホテル（副総支配人）	販売量の動き	・宿泊は、USJ効果が大幅に薄れ、サッカーワールドカップの出控えが大きく影響し、厳しい状況にある。 ・宴会は一般、婚礼とも件数が減少し、業績は悪化している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・規制緩和の新料金が認可され、様々な料金が出てきている。今までの客も料金の安いところへ利用を替えるなど、客数が減少している。
通信会社（社員）	販売量の動き	・市場全体が落ち込みつつあることと、新商品を出す谷間の時期であることが重なっている。		
その他住宅[展示場]（従業員）	お客様の様子	・住宅展示場への来場者数に目立った減少はないが、見込み客と呼ばれる早期住宅取得者が減少傾向である。様子見客が増えているのが現状で、出展メーカーの営業効率が益々悪化している。		
企業動向 関連	良く なっている	-	-	-
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏場の改装工事物件の受注が順調に推移してきている。
	やや良く なっている	金属製品製造業（団体役員）	取引先の様子	・ユーザーおよび商社の在庫調整が進んでいる。
		出版・印刷・同 関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者から、下請けで仕事を回して欲しいという依頼がはっきりなしにあるが、当社も仕事量が足りず、苦しい状況が続いている。
			金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・パソコンの需要台数の伸びがあまりなく、むしろ消費者のパソコン購入は鈍化している。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の生産量は増加の傾向にあるが、設備投資まではいかず、非常にシビアな状態である。
建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず、住宅販売におけるチラシ投下による集客率が非常に悪い。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		金融業（支店長）	取引先の様子	・資金の動きの中で投資に対する意欲はあるが、投資対象が見当たらない。	
		不動産業（経営者）	それ以外	・土地取引において、一等地とそうでないところの差が激しくなってきたが、その反面、物件の買い意欲が各社旺盛で、一等地以外の場所に対する需要も伸びつつあると実感する。	
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・3か月前と比べ、建売住宅、分譲マンションの土地取得意欲は変わっていない。しかし、価格面で将来の地価下落の恐れがあり慎重である。	
		広告代理店（従業員）	取引先の様子	・ほとんどの取引先の売上が低迷しているため、広告宣伝費はますます抑えられる傾向にある。	
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・数か月前に比べ、15%売上が減少しており、大口顧客の広告代理店等の受注量が伸び悩んでいる。	
		その他非製造業【衣服卸】（経営者）	受注量や販売量の動き	・このところ、季節商品の早めの展開も効を奏していたが、小売店では思ったほど売れないため、店頭在庫が増大し、買い疲れから今月の仕入は抑えてきている。サッカーワールドカップの影響で歩いて消費する人が少なくなっている。	
		やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ビンの生産受注が減少しており、末端で売れていない。観光地のみやげ物などにビンが使われているが、その観光客が減少し、売行きが悪い。
			金属製品製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・原材料の値上げが打ち出されているが、受注が少なく、製品に転嫁し値上げをする状況にない。また、競争相手からも値上げの様子が伺えない。
			建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注価格に関して、以前のように無理な安値で受注する会社は少なくなったが、設備投資が上向きにならないために民間工事も工事量が少なく、相変わらず厳しい状況が続いている。
			輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅関連等の大口顧客からの受注量が減少しているうえに、価格交渉で受注価格も低下している。
悪くなっている	輸送業（営業所長）	受注量や販売量の動き	・輸入貨物の配達が減少しており、空車になることが多い。		
	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・賃貸マンションの動向では、新婚夫婦が一番良く借りるなど、6月は動きがある月の一つであるが、新婚向けの物件がほとんど動いていない。		
	その他サービス業【イベント企画】（経営者）	取引先の様子	・新規案件の発生ペースが落ちている。		
雇用関連	良くなっている	-	-	-	
		やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・サービス業を主体として求人、採用者数ともに増加している。
	変わらない	民間職業紹介機関（支社長）	周辺企業の様子	・大量採用の動きはないが、1名採用企業が増加傾向にある。	
		人材派遣会社（経営者）	採用者数の動き	・依然として求人数が増加しているが、採用数は微妙な段階にきている。特にIT分野では、顕著な価格の低下がみられ、採用件数にも若干かげりがある。	
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数そのものは増加傾向にあるが、ほとんどが短期的な受注である。	
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・求人募集の広告枠が経費削減により低下し、出稿頻度は鈍化している。個別部署募集からグループ募集に変更する企業が増えている。	
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・サッカーワールドカップを自宅で観戦する人が多く、飲食店の売上は減少し、採用も抑制されている。	
		学校【大学】（就職担当）	周辺企業の様子	・新規求人増加幅よりも、新規求職者の増加幅が依然として高水準で推移している。	
	やや悪くなっている	新聞社【求人広告】（担当者）	求人数の動き	・新卒者の採用時期は、企業規模が大きいほど早期化し、採用基準のハードルも高い。優秀な学生は、複数企業から内定を獲得しているが、未内定者も過半数あり、二極化現象が起きている。	
		-	-	-	・求人者数が伸び悩んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者の増加が有効求人倍率を引き下げている。
		学校 [大学] （就職担当）	採用者数の動き	・採用企業の内定出しに時間がかかっており、企業側も景気動向に敏感になっている。
	悪く なっている	-	-	-